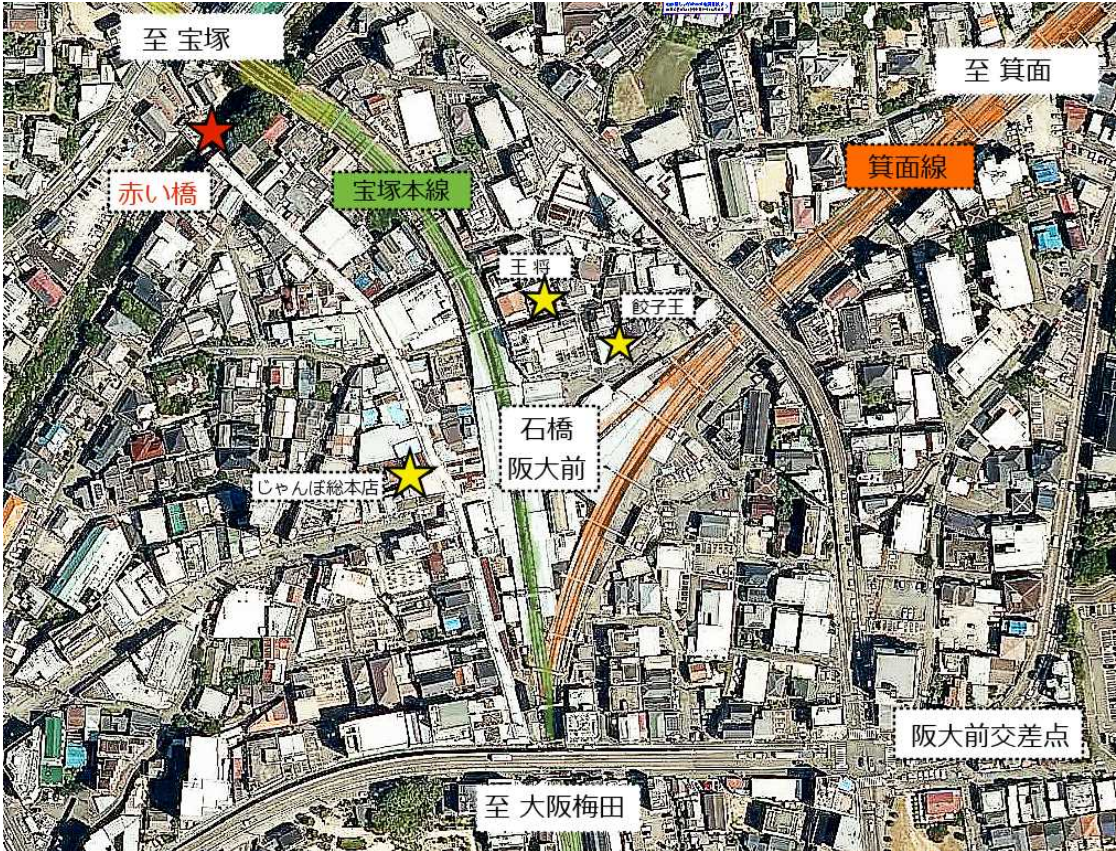


石橋阪大前駅

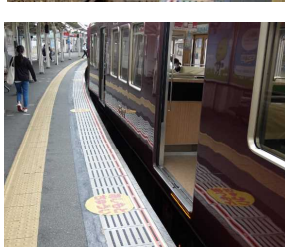
ふちんかん



分岐駅

石橋阪大前駅は、箕面線の起点であり、宝塚本線との分岐駅である。箕面駅とともに阪急最古の駅の1つ。上空写真を見ると見事にY字型に分岐していることがわかる。宝塚線側はホームの池田よりの端ほどカーブがきつくなり、車体とホームの間かなりの隙間ができる。

梅田から箕面への渡り線は、朝夕のラッシュ時の直通列車のみが使用する。



阪急電鉄 箕面線

駅名変更

昨年（令和元年）、駅名が石橋駅から石橋阪大前駅と改名された。

扉の項で触れられているように、同時に改名された京都河原町駅や神戸三宮駅が観光客へのわかりやすさを目的としたものなのに対し、こちらは大学名に地名を寄せていった形だが、阪大キャンパスはここだけではなく、そもそも阪大という略語が分かる人には必要のない案内のように思える。

赤い橋（箕面川橋）

西改札を出てすぐに左右に広がるアーケード街がある。これを右に進み、アーケードが切れたところが赤い橋である。正式名は箕面川橋というのだが、地元の人「赤い橋」とよんで親しんでいる。この橋を渡ると、狭い商店街の喧騒が急に途切れ、道路を渡ると閑静な住宅街が始まる。商店街の中は周りのペースに合わせて歩かされているのだが、赤い橋を境に突然、人が分散するため、行き場がなくなったように感じる。

この赤い橋の先には、よくわからんモニュメント ⇒ があつたり、GoogleMap では足だけの人がいいたりして、もしかすると異世界との境界なのかもしれない。



餃子や粉もんで締め

さて前回の伊丹取材に続き、今回も締めは餃子とビールと想定、取材陣を引き連れて意気揚々と餃子専門店「餃子王」に向かう。この餃子王、もともとは伊丹の大阪王と同じく餃子とビール中心というストロングスタイルの店だった。ただ無料の漬物があつたり、タレだけでなく岩塩が置いてあつたり、最近ではご飯だけだったメニューに一品が追加されたりと、後発だけに大阪王との差別化を図っている。楽しみだ。

さて、しかしである。世はコロナ騒動の真ただ中であり、カウンター10席だけの店内に取材陣6名が一気に入れるわけがない。ばらばらに入っては反省も打ち合わせもできないので、けっきょく餃子の王将が締めの会場となった。

王将飲みはビール単価が高く安心して飲めないのだが、今回、生ビールが300円台に値下げされていたり、ビールセットがあつたりで、割とリーズナブルな料金でほろ酔いに。ここで記事分担などを決めて取材は終了。

その後、A氏おすすめの「じゃんぼ総本店」にて、T氏と3人で2次会。

この日は朝から、ボウリング→歩き→ビール→歩き→餃子・ビール→粉もん・ビールと、ビール以外の水分を取らない「ビールクズ」な振る舞いを続けた。梅雨の晴れ間で発汗も激しく、そのせいか翌週、痛風症状に。本当にくずである。

石橋阪大前駅の項 おわり